



インストール要件

VMware または Cisco Cloud Services Platform (Cisco CSP) ホストのいずれかに Crosswork Data Gateway を展開できます。ここでは、いずれかのプラットフォームに Crosswork Data Gateway をインストールするための一般的なガイドラインと最小要件について説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [VM 要件 \(1 ページ\)](#)
- [使用ポート \(3 ページ\)](#)

VM 要件

特に明記されていない限り、要件は VMware と Cisco CSP の両方で同じです。

表 1: Cisco Crosswork Data Gateway VM の要件

要件	説明
データセンター	<p>VMware</p> <ul style="list-style-type: none">• VMware vCenter 7.0、ESXi 7.0 をホストにインストール済みであること• VMware vCenter Server 6.7 (Update 3g 以降)、ESXi 6.7 Update 1 をホストにインストール済みであること <p>Cisco CSP</p> <ul style="list-style-type: none">• Cisco CSP 2.8.0.276 以降 <p>許可されたハードウェア : CSP-2100、CSP-2100-UCSD、CSP-2100-X1、CSP-2100-X2、CSP-5200、CSP-5216、CSP-5228、CSP-5400、CSP-5436、CSP-5444、CSP-5456</p>
メモリ	32 GB
ディスク容量	74 GB

要件	説明																
vCPU	8																
インターフェイス	<p>最小値：1 最大値：3</p> <p>Crosswork Data Gateway は、次の組み合わせに従って、1つ、2つ、または3つのインターフェイスのいずれかで展開できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NIC の数</th> <th>vNIC0</th> <th>vNIC1</th> <th>vNIC2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック </td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック </td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> デバイスアクセストラフィック </td> </tr> </tbody> </table> <p> <ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック：インタラクティブコンソールにアクセスし、Crosswork Data Gateway VM をトラブルシューティングする場合。 制御/データトラフィック：Crosswork Data Gateway と Crosswork アプリケーションおよびその他の外部データ宛先間のデータと設定の転送の場合。 デバイスアクセストラフィック：デバイス管理およびテレメトリデータの場合。 </p>	NIC の数	vNIC0	vNIC1	vNIC2	1	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック 	—	—	2	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック 	—	3	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> デバイスアクセストラフィック
NIC の数	vNIC0	vNIC1	vNIC2														
1	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック 	—	—														
2	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック デバイスアクセストラフィック 	—														
3	<ul style="list-style-type: none"> 管理トラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> 制御/データトラフィック 	<ul style="list-style-type: none"> デバイスアクセストラフィック 														
IP アドレス	<p>使用するインターフェイスの数に基づいて、1つ、2つ、または3つのIPv4/IPv6 アドレス。</p> <p>(注) Crosswork はデュアルスタック構成をサポートしていません。したがって、環境のアドレスはすべて IPv4 または IPv6 のいずれかである必要があります。</p>																

要件	説明
NTP サーバ	<p>使用する NTP サーバの IPv4/IPv6 アドレスまたはホスト名。複数の NTP サーバを入力する場合は、それぞれをスペースで区切ります。これらは、ネットワーク全体でデバイス、クライアント、およびサーバを同期するために使用する NTP サーバと同じでなければなりません。NTP IP アドレスまたはホスト名がネットワーク上で到達可能であることを確認します。到達可能でない場合、インストールは失敗します。</p> <p>Cisco Crosswork Data Gateway ホストと仮想マシンは NTP サーバに同期する必要があります。同期しないと、Crosswork Cloud への登録を完了できない場合があります。</p>
DNS サーバ	<p>使用する DNS サーバの IPv4/IPv6 アドレス。これらは、ネットワーク全体でホスト名を解決するために使用する DNS サーバと同じである必要があります。</p>
DNS 検索ドメイン	<p>DNS サーバで使用する検索ドメイン（たとえば、cisco.com）。検索ドメインは 1 つのみ設定できます。</p>



- (注) Cisco Crosswork Data Gateway アプリケーションは Ubuntu Server 20.04.2 にバンドルされています。シスコは、セキュリティやその他の修正に対処するため、必要に応じて更新プログラムを提供します。

クラウドの導入では、Cisco Crosswork Data Gateway は TLS 経由でインターネットに接続する必要があります。プロキシサーバーが必要になる場合があります。ネットワークにプロキシサーバーがある場合は、インストールプロセス中、またはインストール後に Crosswork Data Gateway VM のインタラクティブコンソールから設定する必要があります。参照先：

- [制御プロキシの設定](#)
- [Crosswork Data Gateway の接続の確認](#)

使用ポート

次の表に、Cisco Crosswork Data Gateway が正常に動作するために必要なポートの最小セットを示します。



- (注) これは、基本的な Cisco Crosswork Data Gateway 機能のみを有効にするためのセットです。Cisco Crosswork Data Gateway で実行されているアプリケーションに応じて、追加のポートを使用することができます。



(注) SCP ポートを設定できます。

表 2: 管理トラフィック用に開くポート

ポート	プロトコル	使用対象	方向
22	TCP	SSH サーバ	着信
22	TCP	SCP クライアント	発信
123	UDP	NTP クライアント	発信
53	UDP	DNS Client	発信
443	TCP	Crosswork コントローラ	発信